

# 学部・研究科等の現況調査表

## 教 育

平成20年6月

京都教育大学

## 目 次

1. 教育学部	1-1
2. 教育学研究科	2-1

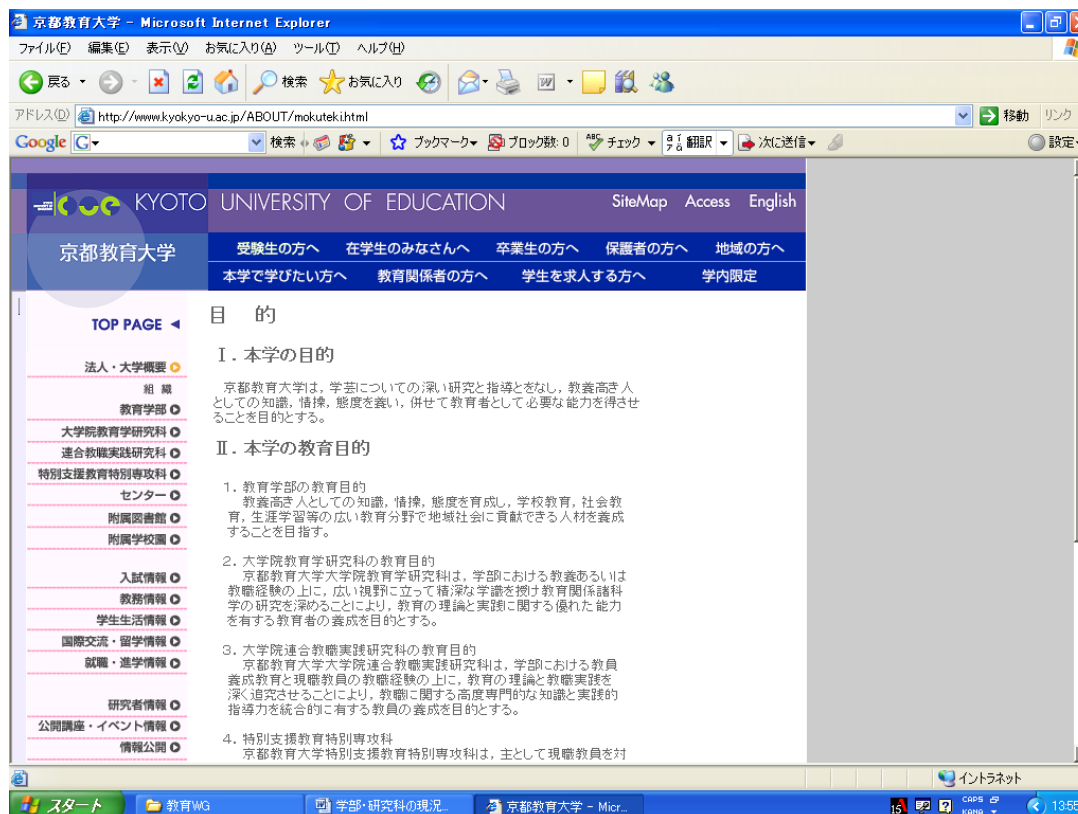
# 1. 教育学部

I	教育学部の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	1 - 2
II	分析項目ごとの水準の判断	・ ・ ・ ・ ・	1 - 4
	分析項目 I 教育の実施体制	・ ・ ・ ・ ・	1 - 4
	分析項目 II 教育内容	・ ・ ・ ・ ・	1 - 7
	分析項目 III 教育方法	・ ・ ・ ・ ・	1 - 11
	分析項目 IV 学業の成果	・ ・ ・ ・ ・	1 - 15
	分析項目 V 進路・就職の状況	・ ・ ・	1 - 17
III	質の向上度の判断	・ ・ ・ ・ ・	1 - 19

## I 教育学部の教育目的と特徴

本学は、「学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養い、併せて教育者として必要な能力を得させること」を大学の目的(学則第1条)とし、これを教育研究の基本的理念として継承し今日に至っており、【資料1】のように掲げ、社会に公表している。

### 【資料1】目的 (HPより)



これにより、本学は教育学部を擁する単科の大学として、諸学問、諸芸術、スポーツなど、広く学芸についての深い研究とこれらを通じた質の高い教育をなすとともに、人を育てるための新しい知の創造と実践によって地域及び国際社会に貢献し、責任と使命を自覚した実践力のある教育の専門家を養成することを目指している。

教育目的を学部共通のものと課程別のものを示すと【資料2】のとおりである。

### 【資料2】学部共通及び課程別の教育目的

教育学部全体の教育目的	教養高き人としての知識、情操、態度を育成し、学校教育、社会教育、生涯学習などの広い教育分野で日本と地域社会に貢献できる人材を輩出する。
学校教育教員養成課程の教育目的	広い教養と学識及び柔軟な教育実践力を修得させることにより、学校教育を中心とする教育現場に貢献できる教育者を育成する。
総合科学課程の教育目的	広い教育的視野を持ち、情報化、国際化や環境問題などの社会の当面する諸問題に積極的に対応できる人材を育成する。

本学は、平成18年度より入学定員300名を学校教育教員養成課程に一本化する学部改組を行い、実践的指導力に富む教員を養成するため、特色あるカリキュラムを設けた。特に、様々な教育課題に対応するため「教育課題対応科目」群を設け、その中に「公立学校等訪問研究」「特別支援教育」等の科目を新設し、7附属学校園並びに公立学校等と連携しつつ実地

教育の充実を図っている。また、「知的財産創造・活用力を育成する教員の養成」プログラム（以後、「知的財産 GP」と記す）が、平成 17 年度～20 年度の現代的教育ニーズ取組支援プログラムに選定され、小学校における知的財産教育の教材化モデル及び授業パッケージを開発するとともに、それらを活用した教員養成プログラムの構築を図っている。

[想定する関係者とその期待]

教員養成課程では、学生、京都府・市及び近隣地域の教育委員会、同地域の学校を関係者と想定し、実践的指導力を有する教育の専門家の輩出が期待されている。また総合科学課程については、学生、企業、国及び地方公共団体を関係者と想定し、社会の当面する諸問題に積極的に対応できる人材の育成が期待されている。

## II 分析項目ごとの水準の判断

### 分析項目 I 教育の実施体制

#### (1) 観点ごとの分析

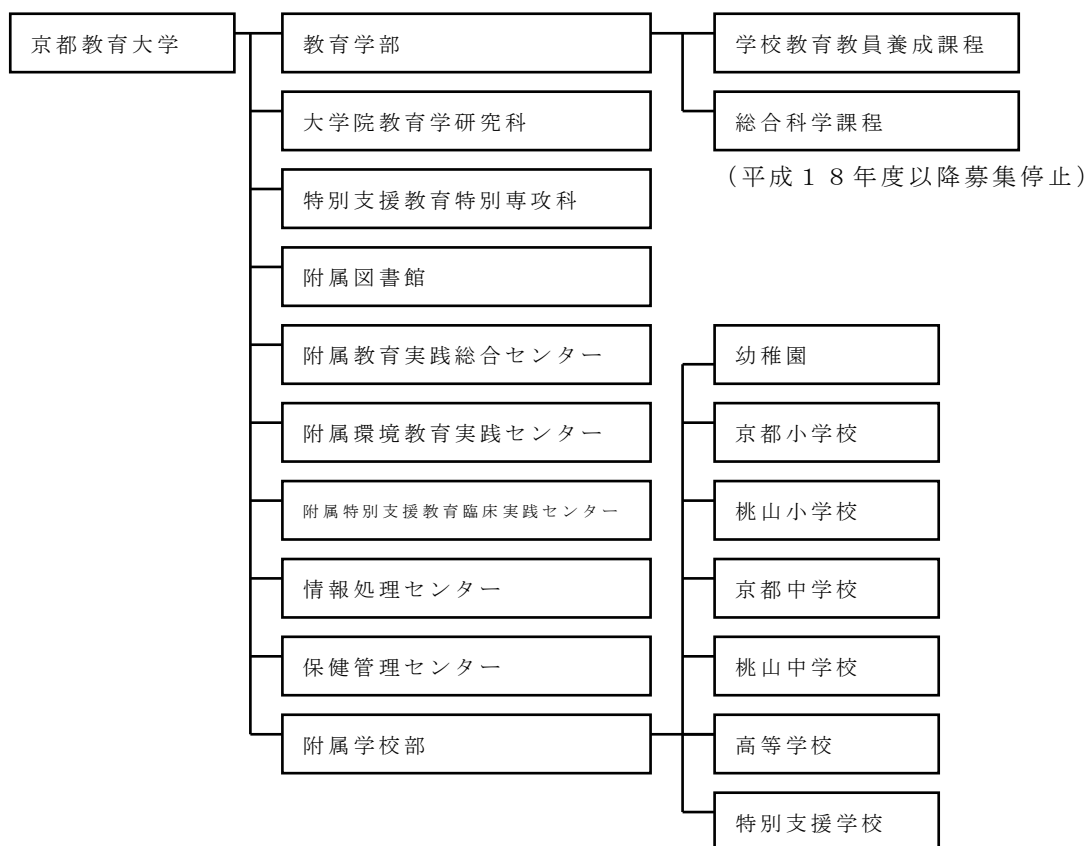
##### 観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

本学の大学全体及び教育学部の組織図は【資料3】【資料4】のとおりである。また、1年課程で知的障害教育専攻及び重複障害教育専攻から成る特別支援教育特別専攻科を【資料5】の目的の下に設置している。本学には、「教育実践力の修得」「環境問題等社会の諸問題への対応」や「情報化への対応」といった機能を担う3つのセンターがあり、加えて、平成19年度に特別支援教育臨床実践センターを設置し、特別支援教育の中核センターとして活動を開始した。平成18年度に学部改組を行ったため、平成17年度以前の組織図も併記する【別添資料1】。

本学の入学定員は教育学部300名であり、過去4年間の収容定員及び現員状況は【資料6】のとおりである。教員は教員養成における教科に関する組織を中心に構成されている【資料7】。効果的なカリキュラムを遂行するために専任教員と共に、非常勤講師延べ366名(平成19年度)が授業を担当している。非常勤教員担当授業は全体の23%前後であり、専任教員を中心に授業運営がなされている【資料8】。また、教員組織の活動をより活性化するため【資料9】、教育委員会や教育現場の第一線で活躍している現職教員を大学教員として迎えるとともに、京都府教育委員会(平成16年度)、京都市教育委員会(平成17年度)とそれぞれ包括協定を締結し、平成17年度から両教育委員会から推薦された2名を専任教員として採用する、特任教員制を導入した。

#### 【資料3】大学組織図(平成19年度)



【資料4】教育学部組織図（平成18年度改組後）



【資料5】特別支援教育特別専攻科規則（京都教育大学規程集より）

京都教育大学特別支援教育特別専攻科規則	
	平成16年 4月 1日 制定 平成19年12月14日 最終改正
(目的)	
第1条 本学特別支援教育特別専攻科（以下「特別専攻科」という。）は、主として現職教員を対象とし、精深な程度において発達障害学に関する専門の事項を教授し、その研究を指導して、資質の向上を計ることを目的とする。	
（以下省略）	

【資料6】教育学部学生定員と現員状況

課程名		平成16年度 定員 (現員)	平成17年度 定員 (現員)	平成18年度 定員 (現員)	平成19年度 定員 (現員)
平成18年度改組による課程	学校教育教員養成課程			300 (353)	600 (699)
平成12年度改組による課程	学校教育教員養成課程	640 (822)	640 (852)	480 (692)	320 (484)
	総合科学課程	560 (681)	560 (709)	420 (501)	280 (346)
平成9年度改組による課程	初等教育教員養成課程	(7)	(3)	(1)	
	中学校教員養成課程	(14)	(6)	(3)	(1)
	養護学校教員養成課程	(4)	(2)		
	総合科学課程	(23)			
昭和63年度改組による課程	特別教科（理科）教員養成課程	(1)	(1)		
合計		1,200 (1,552)	1,200 (1,573)	1,200 (1,550)	1,200 (1,530)

【資料7】専任教員数一覧（平成20年3月31日現在）

学 科 名	教 授	准教授	講 師	助 教
教 育 学 科	8	4		
発達障害学科	2	1	2	
幼 児 教 育 科	1	2		
社 会 学 科	7	3	2	
国 文 学 科	4	3		
英 文 学 科	3	5	1	
数 学 科	2	5		
理 学 科	7	5	2	
体 育 学 科	6	4		
音 楽 科	4	2	1	
美 術 科	5	4	1	
家 政 科	4	3		
産業技術科学科	4	2	1	
教育実践総合センター	4	3	2	
環境教育実践センター	2			
特別支援教育臨床実践センター		1		
保 健 管 理 セ ン タ ー	1			
計	64	47	12	0

【資料8】専任／非常勤教員別授業科目数

教育学部	平成16年度			平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	科目数	教員別科目数		科目数	教員別科目数		科目数	教員別科目数		科目数	教員別科目数	
		専任	非常勤		専任	非常勤		専任	非常勤		専任	非常勤
通年科目	19	19	0	26	26	0	20	20	0	14	14	0
前期科目	687	521	166	662	511	151	632	485	147	737	548	189
後期科目	621	475	146	600	462	138	597	453	144	680	503	177
合 計	1,327	1,015	312	1,288	999	289	1,249	958	291	1,431	1,065	366

【資料9】教員の前職一覧表（平成20年3月31日現在）

職名	前職区分			
	大学・短大等教員	学校教員・教育委員会	企業・その他	前職無し（学生等）
教授	28	8	16	12
准教授	22	8	11	6
講師	4	0	4	4

**観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制**

（観点に係る状況）

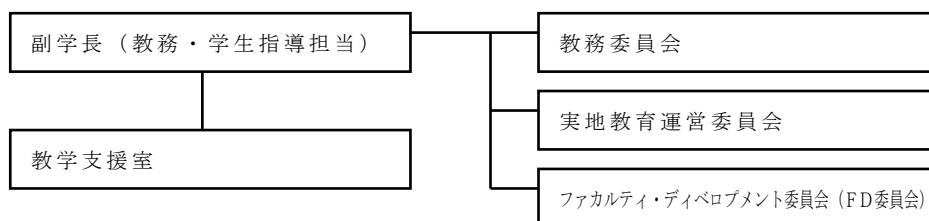
教育の状況を把握し、改善する中心的組織として、【資料10】に示す組織がある。教務委員会は、教員に授業開始前にシラバス、授業終了後に授業科目実施報告書の提出を求め、教育内容や成績評価等の教育活動の把握に努めている。また、FD委員会を中心に、授業アンケートを実施し【別添資料2】、アンケート結果を教員や学生にフィードバックしている。さらに、FDニュースの発行やFD研修会を開催すると共に、大学コンソーシアム京都が主催する「FDフォーラム」に教員を派遣し、教員の教育力の向上や情報収集を積極的に行っている。このようなシステムの中で、各教員は、教科書の変更や講義ノートの改良及び教材のIT化等を行い、授業内容や方法の改善を図っている。平成19年度に実施したFD研修会(研修内容:「私の授業の工夫について」)の内容を【資料11】に示す。

さらに、実践的指導力の向上を図るため、実地教育運営委員会を中心に、1回生から様々



な実地教育を行う体制を整備すると共に、実地教育のあり方について検討を行っている。

【資料 10】教育関係委員会組織図



【資料 11】平成 19 年度 F D 研修会研修内容（京都教育大学 F D ニュースより）

研修内容：私の授業の工夫について	
1	自己評価と相互評価を導入して －教育実習への接続の試み－
2	学生自ら学ぶ －want to study と must study－
3	体を動かすグループ活動を中心に －授業者の話が減らす試行錯誤－
4	Leaner Autonomy を目指した授業 －理論から実践力育成へ－
5	学生からみた良い授業とは？
6	わかりやすい、知的刺激力のある授業を目指して

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由）

実践的指導力に富む教員を養成するため、平成 18 年度より入学定員を学校教育教員養成課程に一本化する学部改組を行うとともに、これまでの 3 センターに加え特別支援教育臨床実践センターを設置し、7 附属学校園と連携・協力して教育の充実を図っている。収容定員に対する専任教員は十分に確保されている。また、京都府・市教育委員会と包括協定を結び、教育現場で経験を積んだ人材を特任教員として受入れる制度を確立した。

教育内容や教育方法の改善に向けて取り組む組織としては、教学支援室、教務委員会、実地教育運営委員会、FD 委員会がある。教務委員会及び FD 委員会を中心に、教育活動に関する自己点検・評価のシステムを立ち上げ、各教員はこのシステムの中で、授業内容や方法の改善を行い、教育の質の向上を図っている。また、実地教育運営委員会を中心に、1 回生から実地教育を積極的に導入する体制を整備している。このような活動の結果、授業アンケートや卒業生アンケートにおいて高い満足を示す結果が得られている（【資料 31】（p1-16）【資料 32】（p1-17）参照）。

分析項目Ⅱ 教育内容

（1）観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

（観点到る状況）

学校教育教員養成課程では教育学士、総合科学課程では教養学士の学位を授与している。前者では、複数の教員免許の取得を義務付けており、後者では中学校・高等学校の教員免許の取得が可能である。両課程のカリキュラムは【別添資料 3】【別添資料 4】のとおりである。

共通教育科目は、教養科目、外国語科目、体育科目で構成し、両課程ともほぼ同様の科目編成である。この他、大学コンソーシアム京都や近隣の国立大学との単位互換制度による修得科目もこの科目群に含めることができ、多面的総合的なものの見方、考え方の基礎

を養うことができるようになっている。

専門教育科目については、学校教育教員養成課程において、教育職員免許法に準じた科目編成となっている【別添資料3】。教育課題対応科目【資料12】には、教員としての素養を培う基礎科目や現代的教育課題・教育実践を視野においた科目を多く配している。教育実習は7つの附属学校園で取得免許に応じ行っており、卒業要件として5～9単位を課している。

一方、総合科学課程では、現代的課題に対応した人材育成を目指し、「生涯発達・表現」「言語・社会」「環境学」「自然科学」「情報」の5コースを設けている。共通教育科目においては、コース・専攻の特性に合わせ、総合科目・外国語科目の単位数を変えている。専門教育科目に課程共通科目として【資料13】のような現代社会の諸問題を理解するための基礎科目を設定しており、また、コース別にコース共通科目【資料14】を設け特定の専門に偏らない視野を持たせる工夫をし、専攻する領域に限らず、隣接する分野の科目群を学び関連分野の視野をもちつつ専攻専門について追究できる科目構成にしている。

これらの教育課程は、教務委員会の専門委員会として設置されている共通教育「外国語」検討専門委員会、履修・評価検討専門委員会や、教学支援室の下に設置されている教員養成カリキュラム専門委員会で見直しをはかり、本学の教育目的に即したカリキュラムの適正化に努めている。

【資料12】学校教育教員養成課程の教育課題対応科目（平成19年度履修案内より）

授業科目名	標準履修期								最低修得単位数		
	1回生		2回生		3回生		4回生		小学校主免許・ 小学校基礎免許 (幼児教育専攻を除く)	幼児教育専攻	中学校主免許
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
公立学校等訪問研究		②							2単位	2単位	2単位
附属学校参加研究			①(通)						1単位	1単位	1単位
介護等体験実習				①(通)					1単位	1単位	1単位
人権教育論	2(前又は後)								4単位	4単位	4単位
総合的学習の研究				2(前又は後)							
特別支援教育	2										
子どもと情報	2								2単位	2単位	
初等教科教育実践論				2							
小学校英語			2(前又は後)						2単位	2単位	
実地教育A	2(通)								4単位	4単位	6単位
実地教育B	2(通)										
オプション実習							2(通)				
教育課題研究実地演習							2				
学校インターンシップ研修							2				
教育相談実習Ⅰ			2(通)								
教育相談実習Ⅱ				2(通)							
学校教育相談実習			2(通)								
国際教育論	2										
子どもの健康と身体形成	2										
知的財産教育論	2										
学校における食教育	2										
学校と子どもの安全	2										
栽培・飼育の実践Ⅰ	2										
栽培・飼育の実践Ⅱ	2										
社会活動論	2										
野外教育論	2										
合 計									16単位	14単位	14単位

教育課題対応科目の履修に際しては、できるだけ同様科目での履修を避けることが望ましい。

【資料 13】総合科学課程の課程共通科目（平成 17 年度履修案内より）

授業科目		1	2	3	4	履修要項
選 択	現代教育論	2				12 単位を修得すること。 (留意事項) 「情報・言語・コミュニケーションⅠ」は、総合科学課程の学生で教員免許状を習得しようとする場合の「情報機器の操作」の科目となる。 ただし、「総合」の「パソコン BASIC 入門」、「情報機器の操作」との重複履修は認めない。
	現代人間論	2				
	現代文明論	2				
	現代科学論Ⅰ	2				
	現代科学論Ⅱ	2				
	現代システム論入門	2				
	情報社会論Ⅰ	2				
	情報社会論Ⅱ	2				
	情報・言語・コミュニケーションⅠ (A) (B) (C)	2				
	情報・言語・コミュニケーションⅡ A	2				
	情報・言語・コミュニケーションⅡ B	2				
	情報・言語・コミュニケーションⅢ	2				
	風土と文化	2				
	環境と資源	2				
環境倫理	2					
現代と芸術	2					
野外教育論	2					

【資料 14】総合科学課程のコース共通科目例（平成 17 年度履修案内より）

環境学コース

科目	授業科目	1	2	3	4	履修要領
共 通	自然環境論	②				10 単位を修了すること。
	生活環境論	②				
	地域環境論	②				
	環境教育論		②			
	環境経済論		②			

\*○付きは必修

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

近年の実践的教育力や国際理解教育力向上の要請に応えるため、学校教育教員養成課程では平成 18 年度入学生から外国語修得単位数を増やすとともに、教育課題対応科目に「小学校英語」を取り入れている。また実地教育についても入学から卒業まで実践力育成を重視し科目編成している【別添資料 5】。キャリア教育・インターンシップとして、京都府・市教育委員会との連携・協力により行ってきた公立学校での研修を、平成 16 年度には「教育課題研究実地演習」「学校インターンシップ研修」として正規授業化し、地域の学校へスクールボランティアとして行くケースも含め、実践的に学ぶ学生が増加している【資料 15】。また、一般企業における「インターンシップ実習」は大学コンソーシアム京都を通じて受講できるようになっており、総合科学課程の学生にも対応している。

他大学との単位互換は年間で 16 単位以内に限り認めており、単位認定の状況は【資料 16】のとおりである。また留学プログラムとして交流協定を結んでいる諸大学への語学研

修等を【資料 17】のように実施しており、総合科学課程の教育目標にある国際人養成にも対応できるよう配慮している。

さらに、知的財産 GP に係る授業として、新入生の必修科目である「基礎セミナー」で知的財産に関する内容を扱うとともに、共通教育科目や教育課題対応科目に「知的財産法概論」「知的財産教育論」を開講している。また、近年の特別支援に関する課題に対応できるよう「特別支援教育」も開講している。

【資料 15】実践的教育プログラムへの参加人数

授業科目・プログラム名	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
教育課題研究実地演習	15	25	30	31
学校インターンシップ研修	33	41	45	37
スクールボランティア	63	138	253	261

【資料 16】単位互換の状況一覧（統計データより）

教育学部単位互換協定に基づく協定大学別単位認定状況

協定大学名	平成16年度			平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	人数	科目数	単位数	人数	科目数	単位数	人数	科目数	単位数	人数	科目数	単位数
大阪教育大学 教育学部	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0
奈良教育大学 教育学部	3	3	6	0	0	0	1	2	3	0	0	0
京都工芸繊維大学 工芸学部・繊維学部	0	0	0	0	0	0	2	2	4	1	1	2
大学 コンソーシアム京都	52	34	104	29	18	68	43	29	86	32	28	67
合 計	55	37	110	29	18	68	47	34	95	33	29	69

【資料 17】大学間交流協定に基づく学生の受入と派遣

派 遣	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣
上海師範大学 ・中国(1993年締結)	3	1	3	2	2	2	2	3
RU41 地域総合大学 ・タイ(1995年締結)	9	7	7	9	—	—	—	—
RU40 地域総合大学 ・タイ(2006年締結)	—	—	—	—	5	2	5	2
南オーストラリア大学 ・オーストラリア(1997年締結)	0	2	0	1	0	0	0	0
チュラロンコン大学教育学部 ・タイ(2002年締結)	1	0	0	1	0	2	0	1
ケベック州大学学長連盟 ・カナダ(2004年締結)	0	0	0	0	0	2	0	2
ケベック大学モントリオール校 ・カナダ(2005年締結)	—	—	0	2	0	4	2	2
春川教育大学校 ・韓国(2004年締結)	0	0	1	0	2	2	3	1
エアランゲン・ニュルンベルク大学 教育学部・ドイツ(2007年締結)	—	—	—	—	—	—	1	2
合 計	13	10	11	15	9	14	13	13

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

設置されている学校教育教員養成課程と総合科学課程はそれぞれ教育学士と教養学士の授与に相応しいカリキュラムを整備している。両課程の特色ある教育課程の体系性と総単位数および共通教育科目と専門教育科目の単位数のバランスを確保している。

学校教育教員養成課程の科目編成は教育職員免許法に準拠するだけでなく、学校現場で求められる現代的な教育課題に対応できる人材養成をめざし、入学から卒業に至るまで実践的指導力の育成プログラムとして系統化している。一方、総合科学課程では、課程共通科目・コース共通科目を設定し、各コース独自の専攻専門科目に特化するだけでなく関連領域まで視野を広げる工夫をしている。

また、諸外国を含め複数大学と単位互換協定を結んで多様なカリキュラムを整備している。さらに、京都府・市教育委員会との連携や企業との協力のもと、インターンシップ等を積極的に実施しており、学生や社会からの要請に十分応える教育課程の編成となっている。

## 分析項目Ⅲ 教育方法

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点到に係る状況)

授業形態は、学校教育教員養成課程及び総合科学課程ともに、共通教育科目において主に講義(教養教育科目)、演習(外国語)、実技(体育)の形で行っており、課程共通を含む専門科目についても多彩な学習形態のカリキュラムとなっている。【別添資料6】

学習指導法に着目すると、【資料18】に一例を示すとおりディベートの導入や視聴覚メディアの利用等の授業が多数あり、また30人未満のクラスが全体の7割と少人数授業が多く、班別学習や個別指導なども随時取り入れて行っている。

#### 【資料18】学習指導法の工夫の例(平成19年度学部シラバスより)

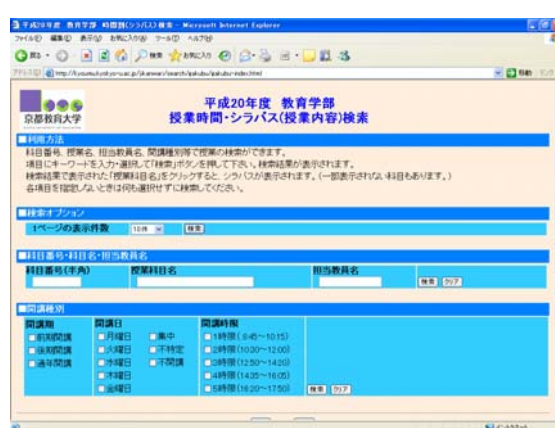
授業科目名	概要	授業形式
基礎セミナー	基礎セミナー(音教)では「大学での学び方」(図書館の利用法・ノートの取り方・レジメの書き方・発表の仕方・レポートの書き方・楽譜の書き方・ディベートの方法等)を中心に学習する。音楽教育専攻では互いに協力しあって創作オペレッタを制作し、上演することを通して音楽と人間について考える。	演習
子ども社会論	現代日本の子どもを取り巻く社会と文化、子どもとは何かの子ども観、子どもの現状について社会的に考察する。また、日本の子どもたちが、特に1990年代以降にどのように変化してきたかを探り、現代社会の子どもたちを守り育てる方法を探る。	講義形式、 文献調査報告、 討議(ディベート)
教育工学	コンピュータなどの教育メディア利用の意義について学習し、教育工学の基礎的な概念を理解する。さらに、コンピュータなど情報機器を用いた授業の設計とその評価について学習する。	テキストや配付資料、 ビデオ、コンピュータなどの教育メディア 課題を設定し、受講者との討議
環境科学Ⅱ	人の活動が環境に与える具体的な影響を講述し、近年大きな課題としてあげられている地球温暖化、水域汚染、土壌汚染の問題について、論環境保全のあり方や持続性のある人と自然との共存方法を考える。また、地球環境の悪化に伴う食糧問題についても考える。	講義形式、 スライドやビデオ、 ディベート

本学では「シラバス作成要領」にしたがってシラバスを作ってきた。さらに、平成19年度後期からは教育支援システムを導入し、本システム上で入力ができるようになった【資料19】。入力されたシラバスはWeb上で学内外から検索でき【資料20】、掲載内容も年々改善し充実してきている。シラバス活用状況については、【資料21】のとおり、8割以上の学生が利用している。

【資料 19】 シラバス作成画面



【資料 20】 シラバス検索画面



【資料 21】 シラバスの利用状況（平成 18 年度卒業生アンケート（問 7））

問 7. 受講科目を決める際にシラバスは利用しましたか。

①利用した ②ある程度利用した ③あまり利用しなかった ④全く利用しなかった

	全 体		教員養成		総合科学	
	人数	比率%	人数	比率%	人数	比率%
①	147	49.2	77	44.3	70	56.0
②	102	34.1	65	37.4	37	29.6
③	46	15.4	31	17.8	15	12.0
④	4	1.3	1	0.6	3	2.4

授業担当については、教養科目や主要な専門科目は主として専任教員が担当している。共通教育科目の基礎科目「基礎セミナー」は、大学及び所属する専攻への入門としての性格を持たせ、所属専任教員が指導している。

TA の活用については【資料 22】に示すとおりであり、実験実習の準備や補助、討論やフィールドワークなどの多彩な授業実施の支援者としてその役割を担っている。

また、講義室では、多様な授業形態や学習指導法に対応できる環境を整えている。【別添資料 7】

【資料 22】 TA の活用状況一覧（平成 19 年度実績）

所属専攻・専修名	TA 従事者数
学校教育専攻	6
障害児教育専攻	3
教科教育専攻	
国語教育専修	1
社会科教育専修	2
数学教育専修	1
理科教育専修	15
音楽教育専修	5
美術教育専修	8
保健体育専修	3
技術教育専修	1
家政教育専修	1
英語教育専修	2
計	48



**観点 主体的な学習を促す取組**

(観点に係る状況)

自主学習への配慮として、学生に対しては、履修登録前のオリエンテーション時に自主学習をするよう指導しており、教員に対しては、シラバスに「自学自習についての情報」という項目を設け【資料 19】(p1-12)参照)、全学的に自学自習の周知を図っている。また単位認定後、教員には授業科目実施報告書に「自主学習支援に関する授業担当者のコメント」【資料 23】を記載することを求めており、自主学習状況の確認を行っている。また環境整備に関しては、情報処理センター、附属図書館等の共同利用施設で時間外利用できるようにしている。さらに校舎改修に伴う室利用計画の見直しで、学生のための共同利用場所についての現況調査を行い、より一層の確保につとめている。

基礎学力不足の学生のうち、再履修の学生に対しては、5限目に別クラスで授業を開講して対処し【資料 24】、取得単位僅少者へは指導教員が個別指導を行っている。また、指導教員制やオフィスアワーによるきめ細かな履修指導の体制を全学的にとっている。

**【資料 23】 自主学習に関するコメント例（平成 17 年度授業科目実施報告書より）**

科目区分	記載事項
外国語	自習のために教科書にCD-ROMがついていました。できるだけそれを使って宿題を出しましたが、コンピュータのない学生が多かったため、乗りが少し悪かった。
初等教科教育	グループによる自学自習を促し、必要に応じてグループ単位で授業時間以外に個別の対応を行いアドバイス等の学習支援を行った。(10グループ×2~3時間)
総合演習	自主授業が多い授業であり、基本的には授業外に準備・作成してきたものを授業で発表、議論することが多かった。ビデオ作品を作ることを最終課題としているので、自主学習の時間は多大になっている。
	読書してきて、紹介し、それをもとに議論するという展開だった。個別に読んできていた。関連図書数冊から選択を要求していたが、要求通りたくさん読んだ学生とそうでない学生があったようだ。
	各担当者の授業後ごとに資料を準備し、それぞれの専門からものづくりへアプローチした授業展開を実施した。学生の授業への取組みも積極的にアプローチの仕方がよくなったと評価している。

**【資料 24】 再履修者用の授業の設置**

開講期	曜日等	開始 時限	時間割番号	授業科目名(クラス名)－副題－	単 位	担当教員	備考
前期	月	5	1211501	特別活動の研究(e)	2	奥尾 英明	再履修者用クラス 2回生は履修不可
前期	火	5	1212501	教育の理念と歴史(e)	2	川村 光	再履修者用クラス 1回生は履修不可
前期	木	5	1214501	教職の研究(e)	2	徳岡 慶一 伊藤 悦子 村上 登司文	「受講登録の注意事項」参照 5月26日(土)に授業の一部を実施する。
後期	月	5	1211551	生徒指導・教育相談Ⅱ(e)	2	本間 友巳	再履修者用クラス 2回生は履修不可 平成18年度以降入学生は、「受講登録の注意事項」参照
後期	月	5	1211552	道徳教育の研究(e)	2	広瀬 綾子	再履修者用クラス 2回生は履修不可
後期	火	5	1212551	教育社会学(c)	2	村上 登司文	再履修者用クラス 2回生は履修不可
後期	木	5	1214551	教育心理学(e)	2	藤岡 秀樹	再履修者用クラス 2回生は履修不可

単位認定には1単位につき標準 45 時間の学修を要することを履修案内に明記し、入学時のオリエンテーションおよび各学年始めの履修指導で説明している【資料 25】。平成 15 年度入学生からは、前・後期ごとに受講登録できる単位数を 28 単位以内と定め、単位に見合った実質的な学修を進めるよう【資料 26】のとおり受講登録単位数の上限設定を行っている。

**【資料 25】 単位の認定（履修案内より抜粋）**

2. 最低修得単位数と単位の認定

（中略）

本学における授業は、講義、演習、実験、実習及び実技に区分され、1単位は、標準45時間の学修を要するものとします。なお、各授業方法ごとの1単位当たりの授業時間数は次のように定められています。

①講義、演習……………授業 15 時間＋自主学习 30 時間＝1 単位

②実験、実習及び実技……………授業 30 時間＋自主学习 15 時間＝1 単位

③共通教育科目などの外国語…授業 30 時間＋自主学习 15 時間＝1 単位

（以下省略）

**【資料 26】 受講登録単位数の上限設定についての記載箇所（授業案内より抜粋）**

授業関係

1. 授業科目の受講登録

単位を得ようとする授業科目を履修するには、受講登録を行わなければなりません。登録を行っていない授業科目を履修しても、単位は認定されません。

**受講登録単位数の上限設定について**

平成15年度入学生から、一学期間に受講登録できる単位数は、28単位以内に制限されています。

（以下省略）

**（2）分析項目の水準及びその判断理由**

（水準） 期待される水準にある。

（判断理由）

共通教育および各専門教育においては講義、演習、実験・実習、実技を配置した多様な授業形態のカリキュラムを整備しており、特に学校教育教員養成課程での実地教育は大学の教育目的とも合致して附属学校や地域の学校と連携し系統的に構成している。また学習指導法についても、ディベート、フィールドワーク、メディア等を利用し、少人数授業での対応が多いなど、きめ細かな工夫がされている。

シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画とともに評価方法を記載しており、学生は授業選択に際し必要な情報を得ることができるようになっている。

自主学习については、オリエンテーション時での説明に始まり、シラバスの工夫、授業過程での指導、成績報告時での確認など一貫した配慮が行われている。基礎学力不足の学生への対応としては、クラス編成・開講時間の工夫による配慮を組織的に行っている。また単位の上限設定を行うことで単位の実質化に配慮している。

TAの活用により教育支援を適切に行っている。また、講義室の整備についても年々充実に向けており、現在校舎改修の機会を捉えて自主的学習環境の整備を進めているところである。



## 分析項目Ⅳ 学業の成果

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

学生が身に付ける学力、資質・能力や育成しようとする人材像は、大学案内や学生募集要項等の冊子で明示し、オープンキャンパスや新入生オリエンテーションにおいても説明している【別添資料8】。

教育の達成状況については、各専攻において指導教員が、学生の履修状況を把握しながら個別に検討している。全学的な検証については、教務委員会、実地教育運営委員会、学生生活・就職対策委員会で検討のうえ、教授会で最終的な判断を下している。さらにこれらに加え、大学評価室では卒業時におけるアンケート調査などにより、教育成果達成状況の検証・評価を行っている。

平成18年度授業科目実施報告のまとめでは、授業担当教員による「授業の目標と対応させた達成度」の評価において98%がA「十分に達成できた」またはB「かなり達成できた」と回答している。成績評価の結果については、【資料27】のとおり約8割が合格、45.9%が「優」となっている。また、共通教育科目・学校教育教員養成課程・総合科学課程間で「優」の比率に大きな違いがなく、およそ40～50%となっている。

#### 【資料27】学部開講科目の成績評価結果（平成18年度授業科目実施報告書より）

	科目数	総数	評価別比率（%）				
			優	良	可	合格	否
全体	1,209	36,194	45.9	21.7	10.6	3	18.9
共通教育	218	8,315	45.8	16.5	10.9	8.2	18.6
教員養成課程	843	25,075	46.4	23.8	10.2	1.6	18.1
総合課程	148	2,804	41.9	19.2	12.8	0	26.1

卒業時における教育職員免許状（一種）の取得状況を【資料28】に示す。学校教育教員養成課程では多くの学生が二つ以上の一種免許状を取得している。特に小学校教員免許取得者が年々増加している。また教員免許の取得を義務付けていない総合科学課程でも、半数以上の学生が免許を取得している。

卒業者・留年者・休学者の年次変化を課程別に【資料29】に示す。留年者数の比率は全体に総合科学課程の方が高いが、総じて年々減少する傾向にある。

学生が授与された各種の賞、論文発表、ならびに学会発表に関する資料をそれぞれ【別添資料9、10、11】に示す。

#### 【資料28】教育職員免許状（一種）取得状況

		平成16年度	平成17年度	平成18年度
教員養成課程	卒業者数	187	187	200
	小学校	134	145	167
	中学校	169	162	162
	高等学校	184	177	175
	養護学校	14	26	32
	幼稚園	30	34	48
	延べ取得者数	531	544	584
	一人あたり平均取得数	2.8	2.9	2.9
総合科学課程	卒業者数	158	154	148
	中学校	72	69	75
	高等学校	96	79	93
	延べ取得者数	168	148	168
	一人あたり平均取得数	1.1	1	1.1

【資料29】課程別卒業生数および留年者数、休学者数

		平成16年度	平成17年度	平成18年度
学校教育員養成課程	卒業生数	187	187	200
	留年者数	46	45	45
	休学者数	16	15	19
総合科学課程	卒業生数	158	154	148
	留年者数	65	50	46
	休学者数	20	11	16
全体	卒業生数	345	341	348
	留年者数	111	95	91
	留年者率	24.3%	21.8%	20.7%

観点 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

平成18年度卒業生アンケート【資料30】で、本学の教育がその目的に合致しているかという問いに対し、学校教育員養成課程では「合致している」「ある程度合致している」が82.8%、総合科学課程では80.0%という結果が出ている。また「総じて、本学の教育に満足していますか」との問いに対しては、学校教育員養成課程では「満足」「ある程度満足」が82.5%、総合科学課程では77.1%になっている【資料31】。

このことは、平成19年度後期に行った授業アンケートの「総合してみるとあなたはこの授業にどの程度満足していますか」との問いに対して、「とても満足」「やや満足」が約8割を示していることとも合致する【資料32】。

【資料30】平成18年度卒業生アンケート集計結果の一例（問15）

問15 本学の教育は、次に示した本学の目的に合致していると思いますか。

「広い教養と一定の学力をそなえた柔軟な教育実践力を身につけた教育者の養成、及び広い教育的視野を持ち一定の専門的能力を身につけた社会人の養成」

①合致している ②ある程度合致している ③あまり合致していない ④全く合致していない

	全 体		教員養成		総合科学	
	人数	比率%	人数	比率%	人数	比率%
①	47	15.7	31	17.7	16	12.8
②	198	66.0	114	65.1	84	67.2
③	49	16.3	25	14.3	24	19.2
④	6	2.0	5	2.9	1	0.8

【資料31】平成18年度卒業生アンケート集計結果の一例（問43）

問43 総じて、本学の教育に満足していますか。

①満足 ②ある程度満足 ③あまり満足していない ④不満足

	全 体		教員養成		総合科学	
	人数	比率%	人数	比率%	人数	比率%
①	55	19.0	35	20.3	20	16.9
②	178	61.4	107	62.2	71	60.2
③	49	16.9	26	15.1	23	19.5
④	8	2.8	4	2.3	4	3.4

【資料 32】授業の満足度に対する調査結果（平成 20 年度後期授業アンケート（347 科目）による集計）

満足度	比率(%)
とても満足	26.7
やや満足	54.2
やや不満	15.3
とても不満	3.7

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

育成しようとしている人材像については大学案内等で公表し、また新入生オリエンテーション等で説明している。

教育成果の検証については、まず指導教員や各専攻での把握がなされ、全学的には関連委員会での検討を経たうえで、教授会で確認している。

卒業時に学生が身に付ける学力や資質・能力について、8割以上の学生は達成できている。卒業する学生は、学校教育教員養成課程は全員、総合科学課程の半数以上が、一種免許状を取得している。また、卒業生アンケートにおいて本学での教育に対し総じて満足している結果が得られた。これらのことから、本学での教育の成果や効果があがっていると判断することができる。

分析項目 V 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業後の進路の状況

(観点に係る状況)

平成 16 年度～18 年度にかけての卒業生の進路状況は、【資料 33】のようになっている。学校教育教員養成課程における教員就職率は、平成 17 年度はやや下回ったものの総じて 60 数%を維持し、特に正規教員採用比率は年を追うにつれ増加している。これは、模擬面接や教員採用試験対策セミナーなどの就職支援プログラムの成果であると考えられる。【別添資料 12】また企業就職者数や大学院への進学者数も平成 18 年度は前年度から大きく増加した。一方、総合科学課程では、毎年 5 割弱の卒業生が企業・公務員等に就職し、大学院への進学者数も教員養成課程に比べ多い（平成 18 年度の進学者比率は教員養成課程 11.5%、総合科学課程 18.1%）。

【資料33】学部生進路調査結果

学校教育教員養成課程

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
卒業者数	179	180	192
教員（正規採用）	41	54	72
教員（非常勤採用）	78	51	52
企業	16	23	31
公務員等	10	11	6
進学	18	13	22
その他	16	28	9
教員合計	119	105	124
教員比率（%）	66.5	58.3	64.6
正規教員比率（%）	22.9	30.0	37.5

総合科学課程

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
卒業生数	145	148	144
教員（正規採用）	4	2	11
教員（非常勤採用）	18	12	5
企業	60	50	61
公務員等	10	13	6
進学	18	30	26
その他	35	41	35
企業・公務員等・進学の合計	88	93	93
教員合計	22	14	16
教員比率（％）	15.2	9.5	11.1

**観点 関係者からの評価**

（観点に係る状況）

卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見としては、平成19年3月に実施した卒業生アンケートにおいて、約8割以上が本学の教育についてほぼ満足と評価している（【資料31】（p1-16）参照）。

また、平成17年度に実施された「地域と連携した教育の総合大学としてのあり方に関する調査研究」【資料34】では、京都府・京都市の全ての公立学校教員対象（約2,800名）に本学についてのアンケート調査が行われている。その中で、本学の教育理念に関する項目で、「教育についての専門的な知識・技術の身に付く大学」に対しては肯定的意見が90%を超え、「優秀な教員を送り出してきた大学」「さまざまな専門性をもった教員のいる大学」が80%と、これまでの実績を表した評価であると考えられる。また、教員養成への貢献度に関する項目では、「教科指導のための専門的な知識・技能」についての肯定的意見は90%と高い評価を得ている。

**【資料34】「地域と連携した教育の総合大学としてのあり方に関する調査研究」からの例**

**【Ⅱ-2】教育についての専門的な知識・技術の身につく大学**

		大変そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	合計
全体	人数	531	921	114	6	1572
	比率（％）	33.8	58.6	7.3	0.4	100

**【Ⅱ-5】優秀な教員を送り出してきた大学**

		大変そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	合計
全体	人数	232	1039	275	15	1561
	比率（％）	14.9	66.6	17.6	1.0	100

**（2）分析項目の水準及びその判断理由**

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

卒業後の進路状況等の実績をみると、学校教育教員養成課程においては、平成18年度の教員就職率が前年度を上回った。特に正規教員採用者数の増加は顕著である。これは、小学校教員の需要が増える傾向にあるものの、教員採用試験に臨む学生への支援の強化が功を奏したと考えられる。また総合科学課程についても、企業・公務員等への就職者および大学院への進学者の合計が増加傾向にある。

さらに、卒業生アンケート及び「地域と連携した教育の総合大学としてのあり方に関する調査研究」においても、高い評価を得ている。

### Ⅲ 質の向上度の判断

#### ①事例1「学部改組、カリキュラム改革」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)平成18年度入学生からは学校教育教員養成課程に特化した。そのカリキュラムの特徴としては、教員としての素養を培う基礎科目や現代的な教育課題・教育実践を視野においた科目を多く配している。特に1回生では「公立学校等訪問研究」、2回生では「附属学校参加研究」を配置し、段階的に教職へのキャリア形成を意図した科目構成にしている(【別添資料5】参照)。また、公立学校との連携による「教育課題研究実地演習」「学校インターンシップ研修」を単位化し、京都府・市教育委員会や地域の学校とも連携して実践的指導力を備えた教員の養成にも力を入れている(【資料15】(p1-10)参照)。これらのカリキュラムを部分的に受講してきた旧課程履修生の教員採用率は上昇している。

#### ②事例2「知的財産GP『知的財産創造・活用力を育成する教員の養成』」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)本GPにおける教育的取組としては、教材研究部会に「民話」「先端技術」「京野菜」「デザイン」の4部門を設け、京都府・京都市の小学校4校と共同研究を行っている。小学校での実践を通し、小学生へ知的財産の魅力や保護について知らせるとともに、知的財産を創造する喜びの体験を得させ、小学校教員に対しては授業づくりのための視点や知識・技術の提供を行っている。

一方、大学のカリキュラムとして、必修科目である「基礎セミナー」における導入講義及び共通教育科目「知的財産法概論」と教育課題対応科目「知的財産教育論」を開講し、子どもの知的財産創造・活用能力を育成することができる小学校教員の養成を目指している。

#### ③事例3「教員採用率の上昇」(分析項目Ⅴ)

(質の向上があったと判断する取組)学校教育教員養成課程卒業生の教員採用(正規)は、法人化後の3年間、実数・採用率ともに着実に増加している。特に正規採用者数は3年間で約1.8倍も増加した。これは、採用率を上げるため大学を挙げて様々な取組を継続してきた結果であると思われる(【資料33】(p1-17)【別添資料12】参照)。



## 学部・研究科等の現況調査表

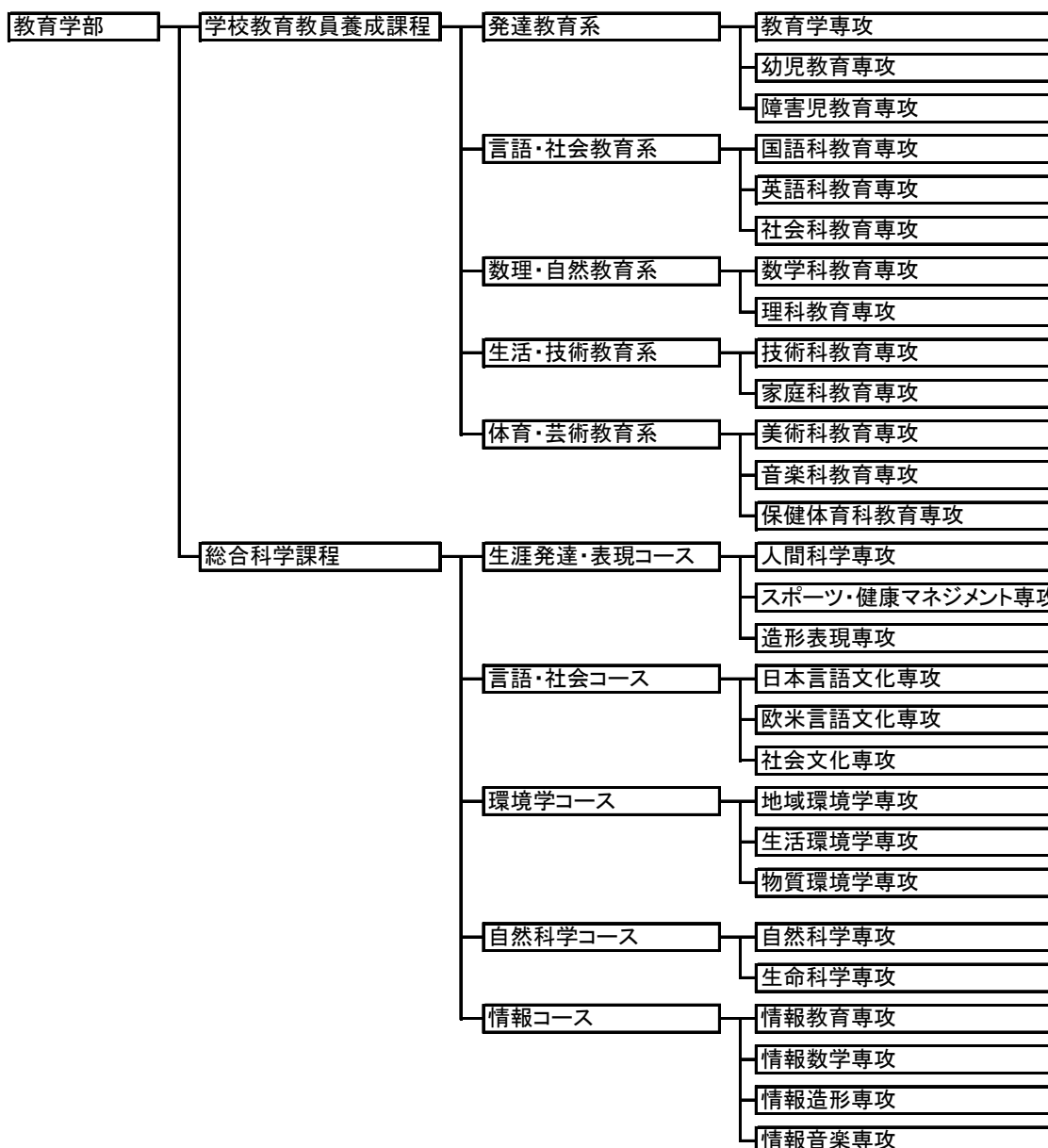
資料集：教育（教育学部）

－ 別添資料集目次 －

【資料1】 教育学部組織図（平成17年度以前）	1
【資料2】 授業アンケート内容	2
【資料3】 学校教育教員養成課程の履修表	3
【資料4】 総合科学課程の履修表	5
【資料5】 実地教育プログラムの構成	5
【資料6】 多彩な学習形態の例	6
【資料7】 各講義室における視聴覚機器等の設置状況	7
【資料8】 京都教育大学の教育研究目標	8
【資料9】 学部学生受賞一覧	9
【資料10】 学部学生における論文・作品発表	9
【資料11】 学部学生における学会等発表一覧	9
【資料12】 就職支援プログラム（教員採用セミナー）	10



【資料1】教育学部組織図（平成17年度以前）



【資料2】授業アンケート内容

★ あなたの学年にマークしてください。 1回生 2回生 3回生 4回以上 その他
★ あなたの所属にマークしてください。 教員養成課程 総合科学課程 大学院 科目等履修生 その他
質問1 あなたがこの授業科目を選択した動機を教えてください。(複数回答可) {⑤ 興味・関心 ④必修だから ③人に薦められて ②空き時間だった ①単位がとりやすそうだった ①その他}
質問2 この授業を受講するにあたってシラバスを参考にしましたか。 {⑤ とても参考にした ④やや参考にした ③あまり参考にしなかった ②ほとんど参考にしなかった}
質問3 この授業へのこれまでの出席状況を教えてください。 {⑤ すべて出席 ④1~2回の欠席 ③3~4回の欠席 ②5回以上の欠席}
質問4 授業時間以外に、この授業のために費やした時間は一週間あたりどの程度ですか。 {⑤ 3時間以上 ④1時間以上3時間未満 ③1時間未満 ②ほとんど費やさなかった}
質問5 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 {⑤ とても意欲的だった ④やや意欲的だった ③あまり意欲的ではなかった ②ほとんど意欲的ではなかった}
質問6 この授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。 {⑤ とても難しかった ④やや難しかった ③やや易しかった ②とても易しかった}
質問7 この授業に対する担当教員の熱意を感じましたか。 {⑤ とても感じた ④やや感じた ③あまり感じなかった ②ほとんど感じなかった}
質問8 この授業は体系的でよくまとまっていたと思いますか。 {⑤ とても思う ④やや思う ③あまり思わない ②ほとんど思わない}
質問9 あなたにとって、この授業の説明はわかりやすかったですか。 {⑤ とてもわかりやすかった ④ややわかりやすかった ③ややわかりにくかった ②とてもわかりにくかった}
質問10 あなたはこの授業を受講してどの程度満足しましたか。 {⑤ とても満足した ④やや満足した ③やや不満だった ②とても不満だった}
質問11 あなたはこの授業で取り扱ったテーマ・領域に興味を覚えましたか。 {⑤ とても覚えた ④やや覚えた ③あまり覚えなかった ②ほとんど覚えなかった}
質問12 【教員免許を取得予定の受講生のみ】あなたはこの授業を受講して教員になる意欲や動機が高まりましたか。 {⑤とても高まった ④やや高まった ③あまり高まらなかった ②ほとんど高まらなかった}
質問13 【外国語科目の受講生のみ】テキストのレベルはどうでしたか。 {⑤ とても難しかった ④やや難しかった ③やや易しかった ②とても易しかった}
質問14 【外国語科目の受講生のみ】授業の進む速度(進度)はどうでしたか。 {⑤ とてもはやかった ④ややはやかった ③ややおそかった ②とてもおそかった}
この授業についてのあなたの感想や意見を、自由に記述してください。

【資料3】学校教育教員養成課程の履修表（平成19年度授業案内より）

◎最低修得単位数 本学において修得しなければならない最低の単位数は、次のとおりです。

専攻と卒業要件となる免許取得パターン			教育学専攻		幼児教育専攻	発達障害教育専攻		
			小学校1種 + 中学校2種	小学校1種 + 複合的 課題対応 パッケージ	小学校1種 + 幼稚園1種	小学校1種 + 特別支援学校1種		
科目区分								
共通 教育 科目	基礎 科目	日本国憲法	2	2	2	2		
		基礎セミナー	2	2	2	2		
		情報機器の操作	2	2	2	2		
		外国語	6	6	6	6		
		体育	2	2	2	2		
	教養科目	8	8	8	8			
専門 教育 科目	教育課題対応科目		16	16	14	16		
	第2欄	教職の意義等に関する科目	2	2	2	2		
	第3欄	教育の基礎理論に関する科目	6	6	6	6		
	第4欄	教育課程 及び 指導法 に関する 科目	教育課程の意義及び編成の方法	2	2	2	2	
			各教科の指導法	初等	18	18	18	18
				中等	4			
			道徳の指導法	2	2	2	2	
		特別活動の指導法	2	2	2	2		
		教育方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	2	2	2	2		
		教育課程 及び 指導法 に関する 科目 【幼免】	教育課程の意義及び編成の方法			2		
			保育内容の指導法			14		
	生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	4	4	4	4			
	生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目【幼免】			2				
	第5欄	総合演習	2	2	2	2		
	第6欄	教育実習	7	5	7	5		
	小学校免許の教科に関する科目		12	12	12	12		
	中学校免許の教科に関する科目		10~13					
高等学校免許の教科に関する科目								
複合的課題対応パッケージ科目			20					
特別支援教育に関する科目					34			
専攻専門科目		18~15	14	14				
卒業論文		6	6	6	6			
合 計			135	135	135	135		

部の単位修得についての詳細は、各専攻の専攻専門科目の教育課程表を参照してください。

科目区分		専攻と卒業要件となる免許取得パターン		国語領域専攻、社会領域専攻、英語領域専攻、数学領域専攻 理科領域専攻、技術領域専攻、家庭領域専攻、美術領域専攻(美術分野) 美術領域専攻(書道分野※1)、音楽領域専攻、体育領域専攻							
		小学校1種 + 中学校2種	中学校1種 + 小学校2種	※2 小学校1種 + 高等学校 1種	※3 中学校1種 + 高等学校 1種	小学校1種 + 複合的 課題対応 パッケージ	中学校1種 + 複合的 課題対応 パッケージ				
共通 教育科目	基礎 科目	日本国憲法		2	2	2	2	2	2		
		基礎セミナー		2	2	2	2	2	2		
		情報機器の操作		2	2	2	2	2	2		
		外国語		6	6	6	6	6	6		
		体育		2	2	2	2	2	2		
教養科目		8	8	8	8	8	8				
専門 教育科目	教育課題対応科目		16	14	16	14	16	14			
	教職に 関する 科目	第2欄	教職の意義等に関する科目	2	2	2	2	2	2		
		第3欄	教育の基礎理論に関する科目	6	6	6	6	6	6		
		第4欄	教育課程 及び 指導法 に関する 科目	教育課程の意義及び編成の 方法	2	2	2	2	2	2	
				各教科の指導法	初等	18	12	18		18	
					中等	4	6	4	10		6
				道徳の指導法		2	2	2	2	2	2
				特別活動の指導法		2	2	2	2	2	2
				教育方法及び技術(情報機 器及び教材の活用を含む。)		2	2	2	2	2	2
		第4欄	教育課程 及び 指導法 に関する 科目 【幼免】	教育課程の意義及び編成の 方法							
				保育内容の指導法							
				教育方法及び技術(情報機 器及び教材の活用を含む。)							
		生徒指導、教育相談及び進路指導に関 する科目		4	4	4	4	4	4		
		生徒指導、教育相談及び進路指導に関 する科目 【幼免】									
		第5欄	総合演習	2	2	2	2	2	2		
第6欄	教育実習	7	7	7	7	5	5				
小学校免許の教科に関する科目		12	4	12		12					
中学校免許の教科に関する科目		10~13	20		20		20				
高等学校免許の教科に関する科目				20	20						
複合的課題対応パッケージ科目						20	20				
特別支援教育に関する科目											
専攻専門科目		18~15	22	8	14	14	20				
卒業論文		6	6	6	6	6	6				
合 計		135	135	135	135	135	135				

※1：美術領域(書道分野)専攻の免許の組合せは、小学校1種免+高等学校1種免(書道)のみです。

※2：「小学校1種免+高等学校1種免」を選択できる専攻及び免許の組合せは次のとおりです。  
技術領域専攻：小学校1種免+高等学校1種免(農業)、小学校1種免+高等学校1種免(情報)

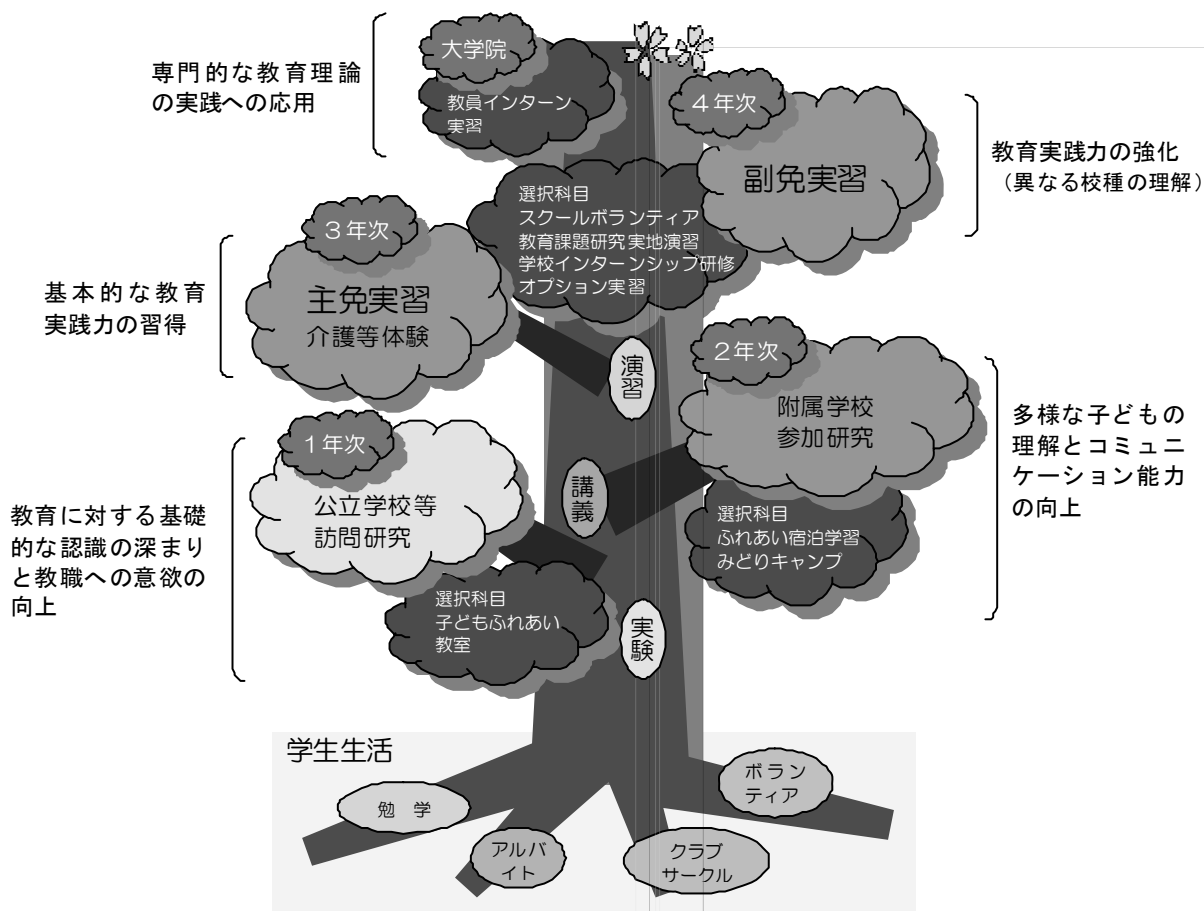
※3：「中学校1種免+高等学校1種免」を選択できる専攻及び免許の組合せは次のとおりです。  
数学領域専攻：中学校1種免(数学)+高等学校1種免(情報)  
理科領域専攻：中学校1種免(理科)+高等学校1種免(農業)、中学校1種免(理科)+高等学校1種免(情報)  
技術領域専攻：中学校1種免(技術)+高等学校1種免(農業)、中学校1種免(技術)+高等学校1種免(情報)

【資料4】総合科学課程の履修表（平成17年度授業案内より）

◎ 最低修得単位数 本学において修得しなければならない最低の単位数は、次のとおりである。

総合科学課程		コース・専攻		生涯発達・表現	言語・社会	環境学	自然科学	情報										
科目区分		人間科学	スポーツ・健康 マネジメント	造形表現	日本語 文化	外国語 文化	社会 文化	地域 環境	生活 環境	自然 環境	物質 科学	生命 科学	情報 教育	情報 数学	情報 造形	情報 音楽		
共通 教育 科目	総合	日本国憲法		2														
		基礎セミナー		2														
		10	12	12	8	8	10	10	10	10	10	10	12	12	12	12		
	外国語	第1 外国語	リテラシー科目 コミュニケーション 科目	4	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	2	2	2	2
	外国語	第2 外国語		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	体育	0		0		4		4		0		0		0		0		
専門 教育 科目	課程共通			2														
	コース共通			12														
	専攻			10														
	卒業論文			60														
	自由選択			6														
	合計			25														
				135														

【資料5】実地教育プログラムの構成（実地教育の樹）（平成19年度公立学校等訪問研究ハンドブックより）



京都教育大学 実地教育の樹

【資料6】多彩な学習形態の例（平成19年度履修案内より）

英語領域専攻

区分	授業科目名	標準履修期及び単位数								免許パターン別の最低修得単位数									
		1回生		2回生		3回生		4回生		小1 + 中2	小1 + パッケージ	中1 + 小2	中1 + パッケージ						
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
専攻専門科目	英 文 法 A		2							2 単位	左の単位のほかに18単位修得すること。	2 単位	左の単位のほかに4単位修得すること。	2 単位	左の単位のほかに22単位修得すること。	2 単位	左の単位のほかに10単位修得すること。	2 単位	左の単位のほかに20単位修得すること。
	英 文 法 B			2						1 単位		1 単位		1 単位		1 単位		1 単位	
	英語音声学講読				1					1 単位		1 単位		1 単位		1 単位		1 単位	
	英 語 史					2				3 単位		3 単位		3 単位		3 単位		3 単位	
	英米文学講読 I A			1						3 単位		3 単位		3 単位		3 単位		3 単位	
	英米文学講読 I B			1															
	英米文学講読 II A				1														
	英米文学講読 II B				1														
	英米文学講読 III A					1													
	英米文学講読 III B					1													
	英米文学講読 IV A						1												
	英米文学講読 IV B						1												
	英米文学講読 V A					1													
	英米文学講読 V B						1												
	リーディング I	①								1 単位		1 単位		1 単位		1 単位		1 単位	
	リスニング I A					1				1 単位		1 単位		1 単位		1 単位		1 単位	
	リスニング I B						1			1 単位		1 単位		1 単位		1 単位		1 単位	
	比較文化						②			2 単位		2 単位		2 単位		2 単位		2 単位	
	基礎英文法実習		1																
	英語音声学実習			1															
	英語学基礎 A	2																	
	英語学基礎 B	2																	
	英語学演習 A							2											
	英語学演習 B								2										
	英文学史 A					2													
	英文学史 B						2												
	英米文学演習 I A							2											
	英米文学演習 II A								2										
	英米文学演習 I B									2									
	英米文学演習 II B										2								
	コミュニケーション・イングリッシュ I		2																
	コミュニケーション・イングリッシュ II A			2															
	コミュニケーション・イングリッシュ II B				2														
	リーディング II			1															
	ライティング I						2												
	ライティング II							2											
	英語学研究 A					2													
	英語学研究 B						2												
	英米文学研究 A						2												
	英米文学研究 B							2											
英語科教育研究 A						2													
英語科教育研究 B							2												
英語科教育特殊講義 I A						2													
英語科教育特殊講義 I B							2												
英語科教育特殊講義 II A								2											
英語科教育特殊講義 II B									2										
英語科教育講読 I A			1																
英語科教育講読 I B				1															
英語科教育講読 II A					1														
英語科教育講読 II B						1													
〔ドイツ語 II A〕			1																
〔ドイツ語 II B〕				1															
〔フランス語 II A〕			1																
〔フランス語 II B〕					1														
ヨーロッパ文化 I							2												
ヨーロッパ文化 II						2													
卒業論文								⑥	6 単位	6 単位	6 単位	6 単位	6 単位	6 単位	6 単位	6 単位	6 単位	6 単位	
合 計									34 単位	20 単位	48 単位	46 単位	34 単位	20 単位	48 単位	46 単位	34 単位	20 単位	

【資料7】各講義室における視聴覚機器等の設置状況

講義室設備・講義用視聴覚機器一覧																										
講義室名	場所	固定タイプ	黒い字移動	黒い字対比増	収録定員 通常	収録 試験	空 調		黒板	マイク	スクリーン	ピアノ	パソコン環境				視聴覚設備・対応メディア									
							冷暖設備	ボイラー					有線LAN	無線LAN	PC接続	その他	プロジェクタ	DVD	VHS	SD-W	E-VHS	LD	録音	HIS	β	DHD
A 1	1号館A棟4F	固定	○	×	71	63	○	○	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A 2	1号館A棟4F	固定	○	×	41	35	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A 3	1号館A棟4F	固定	○	×	47	35	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A 4	1号館A棟4F	実験室形式 丸イス	○	△	48	不向き	○	—	可動2段	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B 1	1号館B棟2F	固定	○	○	47	32	○	—	固定	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B 2	1号館B棟2F	固定	○	○	75	56	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B 3	1号館B棟2F	固定	○	○	47	32	○	—	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B 4	1号館B棟2F	移動	○	○	42	28	○	—	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B 5	1号館B棟2F	移動	○	○	42	28	○	—	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B 6	1号館B棟2F	移動	○	○	30	20	○	—	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B 7	1号館B棟2F	移動	○	○	30	20	○	—	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C 1	1号館C棟1F	固定	○	○	47	35	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C 2	1号館C棟1F	固定	○	○	47	35	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C 3	1号館C棟1F	固定	○	○	67	65	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C 4	1号館C棟1F	固定	○	○	47	35	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C 6	1号館C棟2F	固定	○	○	87	65	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大講義室1	1号館C棟2F	固定	○	○	336	192	○	—	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 1	2号館C棟1F	移動	○	○	72	48	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 2	2号館C棟3F	移動	○	○	72	48	○	—	可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 3	2号館B棟1F	前：移動 後：固定192	○	○	240	140	○	—	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 4	2号館B棟2F	固定	○	○	139	78	○	—	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 5	2号館A棟2F	移動	○	○	24	12	○	○	白板	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 6	2号館A棟3F	移動	×	—	90	80	○	○	可動2段 可動2段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 7	2号館A棟2F	移動	○	○	30	20	○	○	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D 8	2号館B棟2F	移動	○	○	48	32	○	—	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 1 1	共通講義棟1F	移動	○	○	27	18	—	—	クーラー	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 1 2	共通講義棟1F	固定	○	○	90	60	○	○	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 1 3	共通講義棟1F	移動	○	○	24	16	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 1 4	共通講義棟1F	移動	○	○	24	16	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 1 5	共通講義棟1F	移動	○	○	24	16	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 1 6	共通講義棟1F	固定	○	○	150	90	○	○	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 2 1	共通講義棟2F	移動	×	—	24	12	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 2 2	共通講義棟2F	固定	×	—	90	60	○	○	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 2 3	共通講義棟2F	移動	×	—	24	16	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 2 4	共通講義棟2F	移動	×	—	24	16	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 2 5	共通講義棟2F	移動	×	—	24	16	○	○	固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F 2 6	共通講義棟2F	固定	×	—	150	90	○	○	可動2段 2重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 【資料8】学生が身に付ける学力、資質・能力や育成しようとする人材像（HPより）

### 京都教育大学の教育研究目標

京都教育大学は「人を育てる知の創造と実践を担う大学」であり、教育学部学校教育教員養成課程をもつ大学として学問・芸術・スポーツなど学芸の深い研究とこれを通じた質の高い教育を為すとともに、教育に関する新しい知の創造と実践によって地域及び国際社会に貢献し、併せて責任と使命を自覚した実践力のある学校教育及び広く教育の専門家を養成することを目標にする。とくに学校教育教員は、公的教育の担い手であり、深い知識と優れた教育的技術技能が常に要求されるとともに将来の教育を開く研究的かつ創造的な感性と能力が生涯を通して要求されるため、本学は、本学に学ぶ学生諸君がその基礎知識と多彩な実践的能力を身につけることをめざす。

### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

#### ◆京都教育大学が期待する学生像

本学では以下のような学生の皆さんの入学を期待しています。

- 教育の基礎となるさまざまな学問、芸術、スポーツなどに興味・関心を持ち、はば広い学力と旺盛な探求心によって、諸分野の知識や技能を深めようとする人。
- 質の高い教育を行うための専門性や実践的能力を習得することに努力を惜しまない人。
- 子どもの成長に関わることに喜びを感じ、将来は教員として学校教育にたずさわり、地域や国際社会に貢献しようとする人。

#### ◆入学者選抜の方針

本学は、さまざまな資質を持つ学生を受け入れ、多彩な人材が切磋琢磨する学習環境が重要であると考へ、多様な入学者選抜を実施しています。

【一般選抜】大学入試センター試験によってはば広い基礎学力を、個別学力検査によって入学後の専門的学習の土台となる知識・技能を評価します。ただし、前期日程と後期日程では試験科目や配点により評価の重点を変えています。また、芸術系及び体育系の専攻では実技試験を実施します。

【特別選抜（推薦入学）】高等学校等における学業成績や個性的な活動等に基づく学校長の推薦を受けて、学校教員への志向と入学後の専門分野についての基礎的な知識や学習意欲を、主に小論文試験と面接試験によって評価します。芸術系及び体育系の専攻では実技的要素も評価に加えます。

【特別選抜（地域指定推薦入学）】京都府北部地域の高等学校出身者を対象とする特別選抜です。将来、京都府北部地域の学校教育に貢献しようとする意欲と、入学後の学習の土台となる基礎的な知識や素養を、小論文試験と面接試験によって評価します。

以上の他に【編入学試験】と【私費外国人留学生試験】を実施します。詳細については、それぞれの「学生募集要項」を参照してください。

### 各募集区分等と将来の進路希望

◎教育学専攻は小学校教員志望者を、幼児教育専攻は幼稚園教員志願者を、発達障害教育専攻は特別支援学校教員志望者を主な対象としています。【特別選抜（推薦入学）】では、特にこの点を強く求めています。

◎各教科領域の10専攻では、将来の主な進路として、小学校教員または中学校教員を想定しています。

\*【一般選抜】で入学した場合は、入学後に小学校重点型または中学校重点型のカリキュラムを学生が選択します。

ただし、体育領域専攻の前期日程については、小学校教員志望者を主な対象とします。

\*【特別選抜（推薦入学）】は、小学校の教員志願者を対象とします。

ただし、英語領域専攻と技術領域専攻のA入試は、中学校教員志望者を主な対象とします。

また、体育領域専攻については、入学後に小学校重点型または中学校重点型のカリキュラムを学生が選択します。

◎【特別選抜（地域指定推薦入学）】は、所属を希望する専攻にかかわらず、小学校教員志望者を対象とします。



【資料9】学部学生受賞一覧

学生所属	受賞名称	受賞年月
スポーツ・健康マネジメント専攻	全日本インターカレッジ 女子円盤投げ1位	2004.07
スポーツ・健康マネジメント専攻	全日本インターカレッジ 女子円盤投げ2位	2005.07
体育・芸術教育系・美術科教育専攻	毎日書道展 U23奨励賞	2005.07
体育・芸術教育系・美術科教育専攻	毎日書道展 U23毎日賞	2006.07
美術領域専攻(書道分野)	毎日書道展 U23 奨励賞	2006.07
体育・芸術教育系・美術科教育専攻	高野山競書大会 一般部 弘法大師賞	2006.08
学部・学校教育教員養成課程(H18)	三重音楽コンクール声楽部門入選	2006.09
体育・芸術教育系・美術科教育専攻	平成18年度 優秀学生懸賞事業 文化・芸術分野 優秀賞	2006.12
情報コース・情報教育専攻	日本産業技術教育学会第一回発明・工夫作品コンテスト 学会長賞	2006.12
体育・芸術教育系・美術科教育専攻	毎日書道展 U23新鋭賞	2007.07
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿支部大会学生発表賞(ポスター部門)	2007.12

【資料10】学部学生における論文・作品発表

学生所属	論文掲載雑誌	巻・号・頁	掲載年月
理科領域専攻	京都教育大学教育実践研究紀要	4:93-101	2004.03
自然科学コース・生命科学専攻	京都教育大学環境教育研究年報	12: 103-111	2004.03
数理・自然教育系・理科教育専攻	京都教育大学教育実践研究紀要	第4号 pp.103-109	2004.03
知的障害教育専攻	LD研究	第13巻2号	2004.08
数理・自然教育系・理科教育専攻	フォーラム理科教育	第6号 pp.65-70	2004.12
理科領域専攻	京都教育大学教育実践研究紀要	5:79-86	2005.03
生活・技術教育系・家庭科教育専攻	京都教育大学紀要	No. 107, pp. 115-122	2005.09
生活・技術教育系・家庭科教育専攻	Colloid & Polymer Science	Vol. 283, pp. 1356-1360	2005.10
理科領域専攻	京都教育大学環境教育研究年報	14:63-78	2006.03
自然科学コース・生命科学専攻	京都教育大学環境教育研究年報	14: 139-146	2006.03
知的障害教育専攻	LD研究	第15巻2号	2006.07
生涯発達・表現コース・造形表現専攻	大阪現代美術センターにおける作品発表		2007.09
生涯発達・表現コース・造形表現専攻	「アートスペース虹」における作品発表		2008.02
体育・芸術教育系・美術科教育専攻	京都万華鏡ミュージアム姉小路館における作品発表		2008.02
生涯発達・表現コース・造形表現専攻	「CASO」における作品発表		2008.03

【資料11】学部学生における学会等発表一覧

学生所属	会議名(原文)	題目(原文)	開催年月
学部・学校教育教員養成課程(H17)	数学教育学会 夏季研究会	小学校高学年における統計的教育実践	2007.06
学部・学校教育教員養成課程(H18)	日本音楽教育学会近畿地区例会	音楽教育における読譜指導の意義と実践構想	2007.05
学部・学校教育教員養成課程(H18)	日本学校音楽教育実践学会	高校生部活動における学校音楽文化	2007.08
学部・学校教育教員養成課程(H18)	日本学校音楽教育実践学会第13回大会	中学校における読譜指導の実践構想	2007.08
言語・社会教育系・英語科教育専攻	関西英語教育学会 (KELES) 第10回卒論・修論研究発表セミナー	初等段階でのストーリーテリング理解における日本語の役割	2007.02
言語・社会教育系・英語科教育専攻	関西英語教育学会第10回卒論・修論研究発表セミナー	英語の文字学習入門期にいる子供たちに対する綴り字と音を一致させるための指導について	2007.02
言語・社会教育系・英語科教育専攻	関西英語教育学会第10回卒論・修論研究発表セミナー	小学校英語活動における自己評価の効果	2007.02
言語・社会教育系・英語科教育専攻	関西英語教育学会 (KELES) 第11回卒論・修論研究発表セミナー	ピア・フィードバックによる日本人英語学習者のライティングの意識と能力の発達	2008.02
言語・社会教育系・英語科教育専攻	関西英語教育学会 (KELES) 第11回卒論・修論研究発表セミナー	関わり度仮説に基づく日本の中学校英語教科書分析: 語彙指導に焦点を当てて	2008.02
自然科学コース・生命科学専攻	第21回 老化促進モデルマウス研究協議会研究発表会	大麦若葉青汁粉末を経口投与したマウスにおける腹腔細胞のNO産生機能について	2006.07
自然科学コース・生命科学専攻	第22回 老化促進モデルマウス研究協議会県境発表会	大麦若葉青汁粉末を経口投与したマウスの抗体産生機能について	2007.02
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	身近な自然や生活の中のタネに着目した教材開発	2005.11
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	ミズから考える環境教育	2005.11
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	身近な自然を利用した布づくりと染色 - 自然の中の色探し -	2005.11
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	種子からの野菜の栽培実践とその教材性 - 土による育ちの比較を中心に -	2005.11
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	蝶の一生を見つめた成長の観察 - 蛹を支える糸の役割に着目して -	2005.11
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	太陽光を直接利用したエネルギー教材の開発	2005.11
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿大会	中学校理科における「水の状態変化」の教材実験と実践 - 氷・雪の結晶化の観察 -	2005.12
数理・自然教育系・理科教育専攻	日本理科教育学会近畿大会	中学校理科における「物質の境界面での光の進み方」に関する教材化と実践 - 虹のモデル実験をおとして -	2005.12
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	小学校体育授業における視覚的教材導入の効果 - 6年生ハードル走を対象として -	2006.02
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	大学女子陸上競技選手における月経異常と摂食障害の実態及びその影響要因	2006.02
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	地域の安全性に対する保護者の不安が子どもの身体活動に及ぼす影響	2007.01
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	子どもの体力向上を目指した介入研究の試み - 幼稚園における簡単な全身運動遊具を用いたプログラムの可能性 -	2007.01
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	中学校体育授業における実技映像の即時フィードバックの効果 - 器械運動を対象として -	2008.02
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	学校体育授業で取り上げられる運動課題の達成状況 - 附属京都小・中学生を対象として -	2008.02
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	児童における動作の発達と評価項目に関する研究	2008.02
生涯発達・表現コース・スポーツ・健康マネジメント専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	幼児をスポーツ教室に通わせる保護者の意識 - 動機や期待、地域の安全性に対する不安に着目して -	2008.02
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	小学生児童における日常生活習慣及び遊び・スポーツの現状	2006.02
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	子どもの身体的認知的発達と学校体育に関する現状と今後の課題	2006.02
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	日本サッカーの選手育成システムの現状と今後の課題	2006.02
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	日本バスケットボール界の現状と今後の課題 - 企業スポーツからプロスポーツへ -	2006.02
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	観戦動機からみたバスケットボール観戦者の類型化と試合に対する評価	2007.01
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	小学校体育授業における実技映像の即時フィードバックの有効性 - 4年生跳び箱運動を対象として -	2007.01
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	運動意欲とスポーツ条件がスポーツ活動に及ぼす影響	2007.01
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	小学校水泳授業における指導体系の構造と視覚的教材の作成	2007.01
体育・芸術教育系・保健体育科教育専攻	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	小学校水泳授業における視覚的教材の作成	2008.02
知的障害教育専攻	日本LD学会第13回大会	軽度発達障害児のソーシャルスキル指導の検討 - 「ミニ劇場」を通して (第一報) -	2004.08
知的障害教育専攻	第52回日本小児保健学会	Prader-Willi症候群の行動・心理特徴と保護者の意識について	2005.10
理科領域専攻	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	野草の生育を活かして校庭に芝生の環境を作ることはいかにできるか?	2007.12
理科領域専攻	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	暑さ・涼しさの感覚を左右する要因を探る - 自らの探究活動を通じ、子ども主体の理科学習について考える -	2007.12
理科領域専攻	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	あそびや生活とのつながりに目を向けた、たねの教材化を探る	2007.12
理科領域専攻	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	雑草の有用性に関する研究 - 雑草とは何かを考える -	2007.12
理科領域専攻	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	小・中学校教科書の、健康教育の視点からの分析 - 理科・生活科・保健体育に着目して -	2007.12

**教員採用試験対策セミナー等の日程について**  
 （平成 19 年 4 月～ 8 月）  
 平成19年度に実施される平成20年度教員採用試験合格対策のために、次のとおりセミナー等を実施します。教員採用試験を合格しようとする人は是非とも参加してください。（平成18年度後期の教員キヤリア実践講座を要請していない人も積極的に参加してください。）

**1. 教員採用試験対策総合セミナー「教探総合セミナー」**

要請して各日割を実施してください。各日の申込みは不要です。

日割	実施場所	テーマ	講 題
4月12日(水) 19:00～17:50	F16	エントラシーメント — 面接の概要と担当科目 —	個人面接の作成
4月19日(水) 19:00～17:50	F16	試験情報と学習状況の自己把握	学習計画の作成 就職活動、他の試験情報
4月26日(水) 19:00～17:50	F16	エントラシーメントの考え方 — 面接試験の準備は？ —	小論文 エントラシーメントの活用
5月10日(水) 19:00～17:50	F16	エントラシーメントの考え方 — 自己アピール —	自己アピール エントラシーメントの活用
5月17日(水) 19:00～17:50	F16	エントラシーメントの考え方 — 自己アピール —	自己アピール 19年度一斉
5月24日(水) 19:00～17:50	F16	教育時事問題 — 学校の施設と学習指導 —	小論文 学習指導 施設整備 教員採用への活用
5月31日(水) 19:00～17:50	F16	教育時事問題 — 生徒指導 特別支援教育 —	小論文 生徒指導 施設整備 教員採用への活用
6月7日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール
6月14日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備 — 面接準備 特別支援教育 —	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール
6月21日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール
6月28日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備 — 面接準備 特別支援教育 —	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール
7月 5日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール
7月12日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール
7月19日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール
7月26日(水) 19:00～17:50	F16	個人面接の心得と準備	面接問題への対策 学習計画の作成 自己アピール

**2. 教員採用試験対策グループ別セミナー「教探グループ別セミナー」**

4月17日から7月17日まで(断発受講期間を除く)毎週火曜日 18:30～17:50  
 論文、面接、模擬授業などのスキルアップを促すグループ別セミナーを実施します。  
 詳細は、4月12日の総合セミナー及び掲示等でお知らせします。事務局の申し込みが必要です。

**3. 教員採用試験対策直前特別セミナー「教探直前セミナー」**

最新の申込みが必要です。申込締切後については、掲示にのみ案内します。

期日	時間	講 題	参加費
4月27日(水)	19:00～17:00	F16 個人面接対策①	
5月 4日(水)	19:00～17:00	F16 個人面接対策②	
7月11日(水)	19:00～17:00	F16 面接対策・特別対策	
8月10日(水)	19:00～17:00	F16 面接対策・特別対策	

**4. 個別相談**

各員相談（個別指導担当）が教員試験の期間にのりまです。  
 通常の相談の他にエントラシーメントの活用、個別の面接指導、論文指導も行います。  
 ○相談日時 4月12日から、月・水・金に12:30～17:30、火・木に12:30～14:00  
 ○相談場所 C棟2階 教員キヤリア支援センター  
 ○相談担当 鈴木 信子 先生  
 原田 尚子 先生  
 日川 貴子 先生  
 原田 尚子 先生  
 （京都府立高等学校長、京都府教育委員会総務課長兼人事課長兼主任）  
 日川 貴子 先生  
 （京都府立小学校長、京都府教育委員会総務課長兼指導主任兼主任）

注1：事前に学生課担当窓口で、相談時間30分単位を基本の予約をしてください。  
 2：相談日時に変更が必要な場合があります。その場合はセンターの電話に指示等でお知らせください。  
 3：その他、連絡事項等は、その要領書に記述する方が注意してください。

**5. 教員採用試験対策小学校支援セミナー「小学校教探実技セミナー」**

教員採用試験(小学校)の受験に備えて、以下の実技指導を行います。  
 (講師等、詳細は掲示でお知らせします。)  
 ○体育実技  
 ○音楽実技  
 ○図画・工作実技

**6. 教員採用試験試験の実施について(有料)**

教員採用試験(小学校)の受験に備えて、以下の実技指導を行います。  
 (申し込みは生徒へ、詳細は掲示でお知らせします。)

期日	時間	内 容 ・ 場 所	定 員
4月12日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	4/9
4月19日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	4/9
5月10日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
5月17日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
5月24日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
5月31日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
6月7日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
6月14日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
6月21日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
6月28日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
7月 5日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
7月12日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
7月19日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9
7月26日(水)	9:00～13:30	F16 模擬授業	5/9

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ セミナー担当教員 ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

教員採用試験対策の各種セミナーは、個別相談を担当する各員が担当し、教育実践総合センター所属の  
 次の職員が担当します。  
 外川 教員 ・TEL:777-1111 木曜日 13:00～16:00 白旗3階378号室  
 ・E-MAIL: rfm@kcn.ed.jp  
 松村 教員 ・TEL:777-1111 木曜日 13:00～16:00 白旗3階374号室  
 ・E-MAIL: rfm@kcn.ed.jp

(注)  
 ■ 日割や実施時間及び教員等については、都合により変更になる場合がありますので、変更届出に注意してください。  
 ■ わからないなどあれば、学生課の窓口にお問い合わせください。